



2004 I T Uトライアスロン 世界選手権 ポルトガル大会(フンシャル市)  
- アテネオリンピック・トライアスロン競技 日本代表選考大会 -  
(世界最終選考会)

日本勢！ 過去最高の躍進!!

5月9日、ポルトガル・フンシャル市において「2004 I T Uトライアスロン 世界選手権 ポルトガル大会」が行なわれた。この大会は、「アテネオリンピック・トライアスロン競技 日本代表最終選考会」として指定されており、日本チームは、国別枠の獲得と個人代表の選考がかかった重要な試合となった。

<女子>

午後1時30分、76名の選手がスイム・スタート。序盤からシーラ・タオルミナ(U S A)が抜け出し、トップでフィニッシュ。中西真知子(N T T東日本・N T T西日本)が第2集団(14位スイムフィニッシュ/8位バイク・スタート)でタオルミナの追い上げにかかった。関根明子(N T T東日本・N T T西日本)は19位でスイム・フィニッシュしたが第3集団からの追い上げとなった。

8周回のバイクでは、タオルミナの独走かと思われたが、7周目で中西のいる第2集団が吸収し、10人前後のラン・スタートになった。関根、庭田清美(アシックス・ザバス)、忽那静香(日東紅茶)が入った第3周段は約2分差でラン・スタートした。

中西はラン・スタート直後3位まで順位を上げ、その後5位グループで最終周を迎えた。一方、トップはタオルミナとロレッタ・ハロップ(A U S)のサイドバイサイドで最終周に入り、フィニッシュ前200mのスプリントでタオルミナが逃げ切り優勝。中西は、世界選手権過去日本人最高位の6位入賞。追い上げてきた関根は10位を確保。日本人選手が10位以内に2名入り、アテネオリンピックでのメダル獲得にむけて大きな躍進となった。

<男子>

午後4時15分、88名の先週が集結し、オリンピック以上の激戦が予想される中、スイム・スタート。前半から平野司(関西大学)が世界の強豪を前にスイムをトップでリード。そのままスイム・フィニッシュからバイクに入り、第1集団を形成。しかし、2周目には、山本良介(神奈川県トライアスロン連合)、田山寛豪(チームテイケイ)を含む、約50人の集団となった。日本のエース西内洋行(チールテイケイ)はスイムから出遅れ、約2分差の第3集団から激追。しかし、バイク最終周回には第1集団がスピードを上げ、そのままランに突入。田山は6位まで順位を上げ、最終周に入る。

トップはドミトリー・ガーク(K A Z)とイワン・ラーニャ(スペイン)の新旧世界チャンピオンの戦いに加え、WC石垣島でメジャー初優勝のべバン・ドカティ(N Z L)の3人の争いになったが、女子と同じくフィニッシュ500mでガークが落ち、最後は1mの差でドカティが世界選初優勝。田山は粘って、日本人男子過去最高の9位を獲得。山本良介が36位、西内が40位だった。

<総評>

日本チームは、三宅義信アテネオリンピック選手強化対策本部長体制となって挑んだ大勝負を、男女とも過去の最高位を獲得する大躍進を見せ、アテネへのメダルの期待を強くした。

オリンピック選考は国別枠の決定(5月14日)、個人代表の決定(5月16日)となっており、女子は最大の3人枠が見込まれている。男子は5月14日まで人数の確定ができない状況。

<コメント>

中西選手「やっとこれで少し休めます。アテネの代表に選ばれることになったら、今日以上に全力で戦います。」

関根選手「バイクでの(他の選手の)落車でスピードがおちたことがくやしい。アテネに選ばれば、必ず挽回します。」(1週間前に母親が急逝)

田山選手「皆さんのおかげで最後まで全力で走れました。三宅本部長のパワーが自分と日本チームを後押ししてくれました。」

(社)日本トライアスロン連合 広報担当 大塚

090-3204-3126(海外転送可)

[otsuka@jtu.or.jp](mailto:otsuka@jtu.or.jp)

